

滅入っていないで体も心も使い続けていかなくちゃ

今回は数独にちょっと凝って

「凝り性」とは「物事に熱中する性質」ですが、これは何歳になっても改められるものではないようです。若い頃から色々な趣味やスポーツに凝りまくってきたこの私、83歳になっているというのに凝り性は一向に改まらず、最近「数独」に入れ込んでいます。「数独」と言えば、ご存知の通り、「9列9段の升目を3列3段のブロック(全部で9ブロック)に分け、列・段・ブロックのそれぞれに1から9までの数字を重複しないように入れるゲーム」のことですが、なぜゲーム名が「数独」なのか分からずにいました。

日本生まれではないが日本育ちのゲーム

数独というゲームは、パズル本の出版社「ニコリ」前社長の鍛冶真起さんが1984年、米国の雑誌にあったパズル「ナンバープレイス Number Place」を見つけ、自社で発行する書籍に自作の問題を掲載したのが始まりなのだそうですね。そして、日本で紹介された当初これにつけていたという「数字は独身に限る」という曰く不可解な名称から「数」と「独」をとった「Sudoku」が世界に広まり100カ国以上で楽しめるようになったのだそうです。日本生まれではなく日本育ちのゲームのお陰で、日本語由来の「Su」と「Doku」が世界中の人に使われているというのですから愉快的な話です。

数独の国際色に惹かれて

私は、こうした数独の国際的な普及の話を聴いて、数独に凝ったのではありません。実際に、インターネットのSudoku.com社の「上級の数独オンライン」のページに入ってみても、日本語の表現ばかりで日本語の広告まで入っているだけです。何も国際色を感じさせるものはありません。しかし、今回数独の虜になった陰には数独が持っていた国際色に惹かれた面が多分にあります。いったん各週別の「トーナメント」に参加してみると、「ほほう」と思わされるところがあります。下右のリストをご覧ください。

これは最近の週に私が加わっていた「トーナメント」の、締め切りまで残すところ3日ほどの頃の間成績表です。第8位の「ME」がI/my/meの私で、トップのQuaint Mallard選手を追って、ようやく10位以内にランクインしてきたところです。みんな見慣れないニックネームでしょ。とても日本製のニックネームではなさそうです。例えば「Quaint Mallard」なんていう言葉をご存知でしたか。辞書によると「趣のあるマガモ」という意味ですが、「マガモ」なんて日本人の中でそれほど人気のある鳥名ではありません。しかし往年のアメリカの国民漫画「ブロンディ」に出てくる「ダグウッド」も、アメリカでは結構人気のある花木「アメリカハナミズキ(Dogwood)」に由来していたということが大方の日本人に分かったのはずっと後のことだったでしょ。

合計スコア		
第1位	Quaint Mallard	1795370
第2位	Blue-Eyed Manx	1669941
第3位	Outrageous Mandrill	1511754
第4位	Sleepy Wren	1474829
第5位	Determined Jay	1375500
第6位	Silly Hare	1295383
第7位	Thoughtful Kudu	1282361
第8位	ME	972132
第9位	Agreeable Gecko	861975
第10位	Muddy Markhor	793575

本部はアメリカの西海岸じゃないかなと

もう一つ妙な事が分かりました。毎週の「トーナメント」の締め切りが日本時間で月曜日夕刻になっているところ。こんなことから、「トーナメントの本部はアメリカの西海岸にあって、ここで各国「選手」のニックネームを決めて、それぞれの成績を取り纏めてデータを各国支部に送っているのではないか」と類推することができました。それと同時に、私のニックネームの「ME」ですが、これも「選手」本人宛成績表に用いられるものであって、私にも独自のニックネームがつけられているのに違いないと思うようになりました。できることなら、お気に入りのオーストラリア産の珍獣「Wanbat」に、「おどけた／ちょっと変わった振る舞いをする」という意味の「Goofy」をつけた「Goofy Wanbat」だったらいいのに」と勝手に願いながら。

格好の国際競技初出場の場となった

言ってみれば、「上級の数独オンライン」が、80年間を超える人生を過ごしてきた中で一度も国際競技に参加したことのない私にとっては格好の国際競技初出場の場となったわけです。恐らくAIを使って作られたものかもしれませんが、次々と送られてくる数独パズルには、「やさしい」、「普通」、「難しい」、「エキスパート」、「マスター」、「エクストラ」の難度レベルがあって、私が参加しているのは「難しい」のレベルですから、ボクシングで言えば精々フェザー級のクラスですが、それでも毎週出場して手ごわい外国人選手に負けまいと一人海外のリンクに立つような素敵な緊張感をもって楽しく数独パズル解読に取り組んできました。

コロナウイルスの後遺症も癒えて

複数の友人の言によると、現在はやっているコロナウイルスは、呼吸器系の細胞を犯して似非風邪症候群を引き起こすだけでなく、消化器系細胞を犯して食欲を減退させるだけでなく、気力を司る脳細胞の働きまで阻害するといった後遺症があるようですね。振り返ってみれば、自分自身もコロナウイルスに感染した時に風邪症状模様の病状は治ったものの、気力が失せ普段はきちんとしていた私の生活パターンがダラシナクなくなってしまったのもコロナウイルス後遺症のお陰だったのだと思います。そんな気力減退の時期に国際風味満点の数独に巡り合えたのがラッキーでした。お陰で気力も蘇り生活パターンも旧に復してきました。

大切な脳と体の活性化

識者の語るところによれば、もともと数独には、「習慣的に解くことで、脳を正しく疲れさせる」効果があったんだそうですね。「数独の魅力は達成感を得られること。解けると全てのマスが埋まるのですっきりする。」というのは実感できる場所ですが、実際、数独を毎日解くと、脳にどんな影響があるのでしょうか。「数独は先を見越しながら埋めていくパズルなので、日常に必要な予測から行動への脳の使い方の練習ができる」「習慣的に解くことで脳を正しく疲れさせられる。脳も筋肉と同じで何度も使うことで活性化する。」と語る識者の声が素直に耳に入ってくるような気がします。「減入ってばかりいても何も改善しない。体も心も使い続けていかなくちゃ」と改めて自分に言い聞かせました。

以上